

文化財コーナー
御蔵芝の熊野神社について(三)
(NO. 352)
平成27年4月

熊野神社にまつわる熊野の地名についてふれると、「日本の神様読み解き事典」には、「熊野の名はクマクマシ(隈々しという形容詞。樹木が繁茂している様や、ひどく薄暗いという意味をさす言葉である)のクマに由来した地名である」と書かれている。

熊野神社は、熊野三山と言われるものが全国の熊野神社の総本社である。三山はそれぞれ熊野本宮大社(和歌山県田辺市本宮町)、熊野速玉大社(和歌山県新宮市)、熊野那智大社(和歌山県那智勝浦町)からなる。

熊野三山の主祭神は三所権現や熊野権現とも言われ、本宮、新宮、那智の三社に祀られている神々をいう。具体的には本宮の主祭神が素戔嗚尊の別名である家津美御子神(熊野坐大神)、新宮の熊野速玉大社は熊野速玉男神(速玉神)、熊野那智大社は熊野牟須美神(夫須美神)で伊

弉那美神とも言われ、この三神を称して熊野三所権現としている。

家津美御子神(大神)は、八咫鳥を眷属としていと言われている。市内にある熊野神社の熊野大神は、紀伊山地熊野の鎮座。地名に大神が付記され、熊野大神としている。実の神様は、櫛御氣野命また別名素戔嗚尊である。

ここ御蔵芝の神は、最初に婚姻した男女神の伊弉諾命と伊弉冉命の二神が祀られている。この二神は天神七代末に生まれた夫婦神で、国土及び万物の創造の神で日本の島々と多くの神々を生んだ神である。

拜殿に到る手前右側に手水舎(てみずや・ちようずや)がある。この手水舎にある水盤(水を蓄える槽)は、天保十年(一八三九)己亥九月吉日と日付が刻まれている。水盤は、若者中とあることから、村の構成員で若者組と呼ばれる青年たちによって寄進されたと思われる。これを制作した石工は大沼田村の七郎右衛門である。

大沼田村(現東金市)は、東に九十九里町、南は大網白里市に接し、この神社からさ

ほど遠くないところにあるので近郷の石工に製作依頼をしたことが分かる。石工という生業は石材の切り出しや加工、組み立て、石垣を造営したりする、謂わば石の細工人である。石屋、石大工、石切ともいう。寺社仏閣の水盤(手水鉢)や石灯笼、獅子像などに「石工」の名が見られる。

ここ熊野神社の水盤のサイズは縦が三十三cm、横底部が八十二cm、横上部は八十九・五cm、上幅は四十cmとなっている。材質は花崗岩で出来ており、こじんまりとした水盤仕様になっている。なお、手水舎とは参詣者がお参りする前に手を水で清め口を漱ぐために水を溜めておく水盤のある建物のことである。水屋、手水屋とも言う。

片岡 栄
茂原市文化財審議会委員



▲御蔵芝 熊野神社の手水舎正面中央に八咫鳥が刻まれている

文芸コーナー

俳句

冬紅葉足踏みされし池の鯉 高橋 良昌

短歌

皿にある母を分ける凛ちゃんは 山本 明美
どんな時より真面目なお顔

厚着して散走している我を見て 金網 あき子
冬のタンポポ笑って見てる

野良猫は悪怖れもせずふっくらと 武居 敬子
冬空の下穏やかなりて

沈丁花香りにつられ寄り道し 時女 礼子
息を切らして停留所迄

川柳

夜のしゝま鶴の声きく施設かな 伊藤 汲露

マンネリを捨てては拾う安協癖 福田 研治

後期高齢一途に生きる叩き上げ 藤橋 由裕

身の丈の余生を妻と噛み締める 道譯 賢一

空いても敬遠してる自動レジ木内 富美子

楽勝の油断へ負けが滑り込み 高橋 由紀子

ばら贈る野心も少し匂わせて 吉野 千枝子

日記書く私とはぐれないうちに 山野井 和音

面取りをされた言葉が温かい 風間 敬造

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
●投稿は楷書でお願いします。
※俳句、短歌、川柳の原稿送付先 茂原市役所秘書広報課宛「文芸コーナー」と朱書きしてください。
〒297-8511 茂原市道表1番地

